

# 科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

26

## 生活の質高める

ソサエティ5.0 は、2016年に閣議決定された第5期科学技術基本計画に盛り込まれた「超スマート社会」を指す。モノのイ

ンターネット（IoT）や人工知能（AI）といった最新の情報技術を使い、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させることで、経済発展と社会問題の解決を両立し、誰もが快適で活力に満ちた質の高い生活を送れるようになることを目指している。

ソサエティ5.0

において、交通やサービスといった社会システムと一体化した社会システムについて理解を深める必要がある。これまでの必要機能やコストの最適化が図られてきたが、これに加えて、誰が、どのように設計したのか、という点について、設計に関する方法として、計算社会科学の仮説が欠かされることが多い。

## 仮説欠かせず

「公平性とは何か」に係るいずれの研究開発でも、情報科学と社会学との深い連携が必要である。その一例として、計算社会科学の仮説が欠かされることが多い。

ビッグデータ解析を通じて社会を理解する。IoT技術やモバイル技術の進展により、研究は以前から存在し、運用に必要な研究開発技術の進展により、研究は以前から存在し

だが、09年から計算社会学の名で広く認識されるようになった。海外では社会学と情報科学の融合領域として、多くの研究センターや教育プログラムが展開されている。日本でも16年に計算社会学研究会が発足し、ワークショップなどを開催している。

ソサエティ5.0 (金曜日掲載)

# 社会システム ソサエティ5.0 実現



科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センターフェロー／ユニットリーダー（システム・情報科学技術ユニット） 青木 孝  
東京大学大学院情報工学専攻修士課程修了。富士通研究所でロボットのソフトウェアやハードウェアの研究・開発に従事後、スーパーコンピュータ「京」の開発や研究所技術の事業化を担当。18年より現職。

## 社会システムのライフサイクルと研究開発領域

